平成２６年度　政務活動費　先進都市調査報告書

会派名	元風ネット
議員名	金濱　元一　・　南川　達彦
調査実施年月日	平成26年10月15日
調査先　自治体名等	山形県鶴岡市
調査項目	鶴岡市食育地産地消計画について
調査目的	●地産池消の普及について
報告内容 実施したこと	1　視察先(市町村)の概要 人口：131,116　人(H26.9現在)　　行政面積：1311.49　k㎡ 2　視察内容 鶴岡市　学校給食センター　所長　小細澤　充　様 にお話をうかがった。 ●鶴岡市では幅広い世代への食育について全庁的に計画を立て、取り組んでいる。その中でも、今回の視察では、給食を特に取り上げお話をうかがってきた。 鶴岡市の学校給食では、地場産品の使用率50%を目指している。 地場産品を使うことで、地域の生産者が見える給食となり、児童への食育の促進につなげている。また材料として地場産品の購入拡大につながり、地元への経済効果も産み出している。 地場産品を使うことで、材料費のコスト増加を危惧するところであるが、納入業者と価格を契約することで、価格を安定させ、コストの増減をならすことで、材料費の上昇を抑えている。 課題として、季節のあるもので安定供給が難しい、魚介類は給食用に一次加工をする業者が少ないということがあげられていた
感想（まとめ） 本市へ生かせること 等	室蘭は工業産業中心ではあるが、実は漁業が盛んな地域でもあり、また、近隣には、野菜や果物の素晴らしい産地があり、市内にはそうした食材が集まる市場を抱えております。地産地消という考え方は、食育という教育的な面だけではなく経済循環を地域に産み出し、地域活性化の起爆剤にもなりえる。 鶴岡市では地産池消についての全庁的な計画を立てて、取り組むことで、幅広い世代への食育、経済波及、さらには、地域コミュニティの再生まで行っており、本市では近隣市町を巻き込むことで鶴岡市以上に大きな効果が期待できると考える。 課題として、季節のあるもので安定供給が難しい、魚介類は給食用に一次加工をする業者が少ないということを言われておりましたが、この課題は室蘭にもあてはまりますが、加工企業誘致として取り組むべき伸びしろとしてとらえて、今後の市政運営に活かしていただきたい。また、西胆振の中心市としても室蘭は西胆振食材の地産地消を呼び掛けてもらえるよう、訴えていきたいと思います。